

Webを活用した授業のためのTips

02_ Web活用授業の構成・組立

Web活用授業の実施準備

甲南大学教育学習支援センター

はじめに

- この資料では、Webを活用した授業（以下Web活用授業）に関する事柄を網羅的にまとめています。
 - 00～：Web活用授業に係る総論
 - 10～：Web活用授業教材作成について
 - 20～：MyKONANの授業支援機能について
 - 30～：Web会議システム「Zoom」の利用について
- 簡易的ではありますが、使用するツールなどの活用例を、実際に甲南大学で利用可能なものに絞り、掲載しています
 - 掲載の範囲であれば、完全とは言えないまでも、大学内で何らかのサポートができます
- もちろん、インターネット上には様々な情報が出ており、有益なものが沢山あります。それを独自に活用なさを制限するものではありません

02_ Web活用授業の構成・組立の概要

見つかる、きみのなかの無限大。



KONAN INFINITY

- Web活用授業の実施イメージ
 - Web活用授業に必要なもの
 - Web活用授業での理解度確認
 - 授業の例
- Web活用授業の設計の詳細
 - Web活用授業の方法と流れ
 - MyKONANの[コース管理]機能の活用
 - Web活用授業に関する準備が出来たら、授業の“流れ”を具現化する
(⇒詳しくは別途Tipsで)

Web活用授業の 実施イメージ



• 授業の流れの例

– インターネット授業の例：



– リアルタイム遠隔授業の例：



– 教材作成や配信も重要だが、それらをどう組み合わせるかという作戦も重要

オンラインの特性をふまえて

Web活用授業に必要なもの

- 「授業一回分の学習」をオンライン化するには

「①授業内容を伝達する」「②学生が課題等を取り組む」
 「③課題の添削指導を行う」「④質疑応答の機会を設ける」
 「⑤学生同士の意見交換の機会の確保」

- Vol.1でもふれたように「メディアを利用して行う授業」の要件のとおり、単に映像教材などを作成して、先生が何らかの話を伝えたり、教科書や資料を読ませるだけでは「ダメ」とされている
 - メディアを利用して講義内容を教授し、授業終了後に「設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うこと」かつ「学生同士の意見交換の機会が確保されている」必要があるとされている
 - シラバス等を通じて学生に広く伝えることも必要
- 設計の基本的な考え方
 - 授業内容として盛り込む
 - 「①授業内容を伝達する」「②学生が課題等を取り組む」
 - MyKONANの学習をマネジメントする側で盛り込む
 - 「③課題の添削指導を行う」「④質疑応答の機会を設ける」
「⑤学生同士の意見交換の機会の確保」

Web活用授業での理解度確認

- 通常の教室での授業の時に、都度、課題を科すことをせずに済んでいる理由は何か？
 - 課題を科す目的は何か⇒学生の理解状況を確認すること
 - 通常の授業時、先生方は、目の前にいる学生の態度や反応から、学生の理解状況を推定し、授業での話す内容やスピードを無意識に調整している
 - オンラインでの授業は、目の前に学生がいないことから、**どうしても一方通行の授業になりがち**
 - 課題を科す方法は
 - 「Webフォームへの直接入力」「Webでの小テストに解答」「レポートをメールやシステムで提出」など
(小テストでは、原則0%の正解をもって提出とみなす、といった合格点の指定も有効)
 - “学習状況を把握する”機能はMyKONANの[コース管理]が便利
 - [テスト]機能を用いれば、その場で採点も可能なので、簡易的ではあるが「課題の添削指導」までも実施可能
 - 授業の履修登録者のみが参加できる、学生同士の意見交換の場を設けることも可能
- 学習する期間の設定が可能のため、明示的な積み上げ学習も可能
 - テーマ別学習のように、1回ごとの内容が完結している場合は、学期内といった大きな括りで学習に取り組むような指定も可能

授業の例①

例1：Web上での動画教材を視聴するケース

「動画教材視聴」→「課題提出」→「MyKONANでの意見交換」

<掲示例文>

学内システムにアップロードされている動画を視聴し、課題に取り組んでください。
課題の回答（提出）はMyKONANの「課題」を通じて入力・送信してください。
授業に関する質問がある場合はMyKONANの「授業に関する問い合わせ」にある
“新規”から登録してください

授業内容について、MyKONANの「グループ学習」で自由に意見交換をしてください。

本授業は、動画の視聴と課題の提出を必須とし、課題のフィードバックを行います。また、質問および学生同士の意見交換の機会を確保しており、これらの取り組みにより、対面での授業1回分の出席に相当するものとします。

授業の例②

例2：Web上での授業資料を読むケース

「資料読解」→「課題提出」→「MyKONANでの意見交換」

<掲示例文>

学内システムにアップロードされている授業資料を読み、課題に取り組んでください。

課題の回答（提出）はMyKONANの「課題」を通じて入力・送信してください。

授業に関する質問がある場合はMyKONANの「授業に関する問い合わせ」にある“新規”から登録してください

授業内容について、MyKONANの「グループ学習」で自由に意見交換をしてください。

本授業は、資料の読解と課題の提出を必須とし、課題のフィードバックを行います。また、質問および学生同士の意見交換の機会を確保しており、これらの取り組みにより、対面での授業1回分の出席に相当するものとしします。

授業の例③

例3：指定された教科書を読むケース

「教科書を読む」→「課題提出」→「MyKONANでの意見交換」

<揭示例文>

教科書のp.〇～〇までを読み、MyKONAN上の課題に取り組んでください。課題の回答（提出）はMyKONANの「課題」を通じて入力・送信してください。

授業に関する質問がある場合はMyKONANの「授業に関する問い合わせ」にある“新規”から登録してください

授業内容について、MyKONANの「グループ学習」で自由に意見交換をしてください。

本授業は、教科書の読解と課題の提出を必須とし、課題のフィードバックを行います。また、質問および学生同士の意見交換の機会を確保しており、これらの取り組みにより、対面での授業1回分の出席に相当するものとします。

授業の例④

例4：リアルタイム遠隔授業を行うケース

「リアルタイム遠隔授業に参加」→「課題提出」→「MyKONANでの意見交換」

<揭示例文>

本科目はWeb上でリアルタイムでの授業を行います。

所定の曜日・時限に下記URLからテレビ会議システム「Zoom」へログインしてください。

授業中に課題を提示します。課題の回答（提出）はMyKONANの「課題」を通じて入力・送信してください。

授業に関する質問がある場合はMyKONANの「授業に関する問い合わせ」にある“新規”から登録してください

授業内容について、MyKONANの「グループ学習」で自由に意見交換をしてください。

本授業は、リアルタイム授業への参加と課題の提出を必須とし、課題のフィードバックを行います。また、質問および学生同士の意見交換の機会を確保しており、これらの取り組みにより、対面での授業1回分の出席に相当するものとします。



Web活用授業の 設計の詳細



Web活用授業の方法①

- Web活用授業の方法を考える
 - 「インターネット授業」か「リアルタイム遠隔授業」か
 - インターネット授業：
 - 学生が学ぶ時間は、期間で設定するのが一般的
 - 設定例：授業第1週目であれば、4月20日9時から4月27日8時59分まで、など
 - 授業と同じ日時に限定することも不可能ではない
 - 何らかの教材を通じて学生自身が学びを進める
 - 動画
 - » PowerPointのプレゼン資料に先生が話している音声を重ねたもの、話している様子も合わせて収録可能
 - » 教室で実際に黒板に向かって講義を行い、それを収録することも可能
 - 資料+音声：
 - » ここでの資料はPowerPointに限らず、何らかの資料を学生が閲覧することを指示し、その資料の該当箇所を明確にしながら説明する音声を録音する
 - 資料+ワークシート
 - » 何らかの資料を提示し、その解説とともに、学生自身がワークを進め、ワークシート等に取り組む（動画や音声といったものを用いない）
 - » ワークシートの提出により、学生個々の授業内容への理解度・進捗を確認できる
 - これらを複数組み合わせることも可能
 - リフレクションペーパーや小テストなど、何らかの課題を科すなどで、学生の出欠や理解度の確認が必要
 - 教材作成時に「著作権編」に掲載した通り、使用する資料などの著作権について、厳重に意識すること

Web活用授業の方法②

- Web活用授業の方法を考える（つづき）
 - リアルタイム遠隔授業
 - 特定の日時にインターネット上の指定したサイトに“集合”する
 - 授業と同じ曜日・時限（時間帯）にする
 - 「インターネット授業」における教材の部分が、特定の日時に先生自身が行う授業となるため、通常の授業実施イメージに比較的近い
 - 通常授業の際に使用する資料の準備はこれまでどおり必要
 - できるだけ、板書していた部分をPowerPointなどで作成しておいた方が受講学生に対しては親切
 - 文字ベースのレジュメ等であれば、MyKONANなどで配布することも可能
 - インターネット授業で使用するシステムにはホワイトボード機能もあり、それを利用することも可能だが、読みやすい字を書くには、タッチスクリーンとスタイラスペン（タッチスクリーンが反応する専用のペン）を用いる方が望ましい
 - 普通の教室で黒板を用いそれを撮影することも可能だが、判読性に乏しい場合もある
 - リアクションペーパーや小テストなど、何らかの課題を科すなどで、学生の出欠や理解度の確認が必要
 - 教材作成時に「著作権編」掲載した通り、使用する資料などの著作権について、意識すること
 - 事前の接続確認等を実施していることが望ましい
 - 授業開始前までの期間で、学生面談等で試用するなど

Web活用授業の流れ

- 授業方法に応じた、授業の流れを考える
 - シラバスの授業構成にある「第〇回目」、その1回ごとの授業時間の中身を組み立てる
 - 「インターネット授業」「リアルタイム遠隔授業」いずれの場合でも、授業の流れを考え、それに応じた教材等の準備が必要
 - “流れを考える”こと自体は通常の授業と同じ
 - とはいえ、受講学生にとって、先生は画面の向こう側（目の前にいない）であることから、通常授業では無意識に先生が行っていることを敢えて作り出さないといけない
- = 学生の集中力を維持させるための流れづくり
 - 一般論としては、学生が何らかのコンテンツを視聴して学ぶときに（「インターネット授業」の方式は特に）、**10～15分でタスクが切り替わったほうが、集中力が持続しやすい**といわれている
 - タスクの切り替えが難しいときは・・・
 - » 画面に向かって授業をすると、ついつい、声の抑揚が抑え気味になりやすいので、話題の切り替えなどの際に、あえて抑揚をつけることを意識する
 - » 通常の講義で、学生の注意をひくために「ハイ」や「トコロデ」といった言葉を挟む際、あえて声を張るような発語をすることがあるが、このような言葉を、時々挟むことを意識する

Web活用授業は全体の構成が重要 (再掲 + a)

見つかる、きみのなかの無限大。



• 授業の流れの例

– インターネット授業の例：



– リアルタイム遠隔授業の例：



- 上記「青色の部分」をどのような方法で実施するかについては何か決まったものがあるのではなく、先生が一番好ましいと考える方法でよい



- Web活用授業に関する準備が出来たら、授業の“流れ”を具現化する
⇒詳しくは別途Tipsで紹介

各種ご相談等は
教育学習支援センターまで
お寄せください

Mail:lucks@adm.konan-u.ac.jp

[Tel:078-386-4312](tel:078-386-4312) (内線 : 5851)